

ワシントンDC開発フォーラム

大学の国際協力

JICAイエメン女子教育プロジェクトを事例に



2007年11月20日
神戸大学 大学院国際協力研究科
教授 小川啓一



■ 発表目的



- JICAイエメン女子教育プロジェクト(BRIDGE)を事例に大学の国際協力の現状を紹介し、大学が直面している課題についても触れる。

■ 発表概要

1. 日本の大学による国際協力
2. JICAイエメン女子教育プロジェクトを事例に
3. 大学にとってのメリット・JICAにとってのメリット
4. 大学が国際協力に携わる上での課題



2

Copyright (C) 2006 Kobe University. All Rights Reserved.



■ 日本の大学による国際協力

大学が国際協力に参入する意義



■ 社会貢献(国際貢献)



3

Copyright (C) 2006 Kobe University. All Rights Reserved.



■ 日本の大学による国際協力

従来の大学による国際協力

- 留学生の受入れ。
- 個人レベルで勉強会やプロジェクトに参加
 - ODAタスクフォースの座長
 - 国内支援委員など
- JICAなどの援助機関から直接依頼を受けてプロジェクトを実施。

最近の大学による国際協力

- 海外(途上国)の大学と学術協定を結びデュアル・ディグリーを授与。
- 途上国の学術機関と活発な共同研究→途上国政府に政策提言
 - 文科省の国際協力拠点イニシアチブ
- 援助機関のプロジェクトに競争入札する
 - 大学がコンサルタント登録をする

JICA女子教育プロジェクトを事例に。。。



■ イエメンの背景(中東に位置する)



6

Copyright (C) 2006 Kobe University. All Rights Reserved.



■ JICAイエメン女子教育プロジェクト イエメンの背景

■ 最貧国の一つ

- GNI Per Capita:US\$660
- 人口:2,100万人
- 出生率:5.9

■ 女子の教育が遅れている

- 準就学率(女子:41%;男子:61%)
- 修了率(33%;68%)

■ MENAで唯一のEFA:FTI対象国

- 2002年にPRSP, BEDS

■ ドナーの注目度がとても高い。

- ETIIに参加してから現地でイエメンを支援するドナーの数が増加

7

Copyright (C) 2006 Kobe University. All Rights Reserved.



■ JICAイエメン女子教育プロジェクト プロジェクトの概要

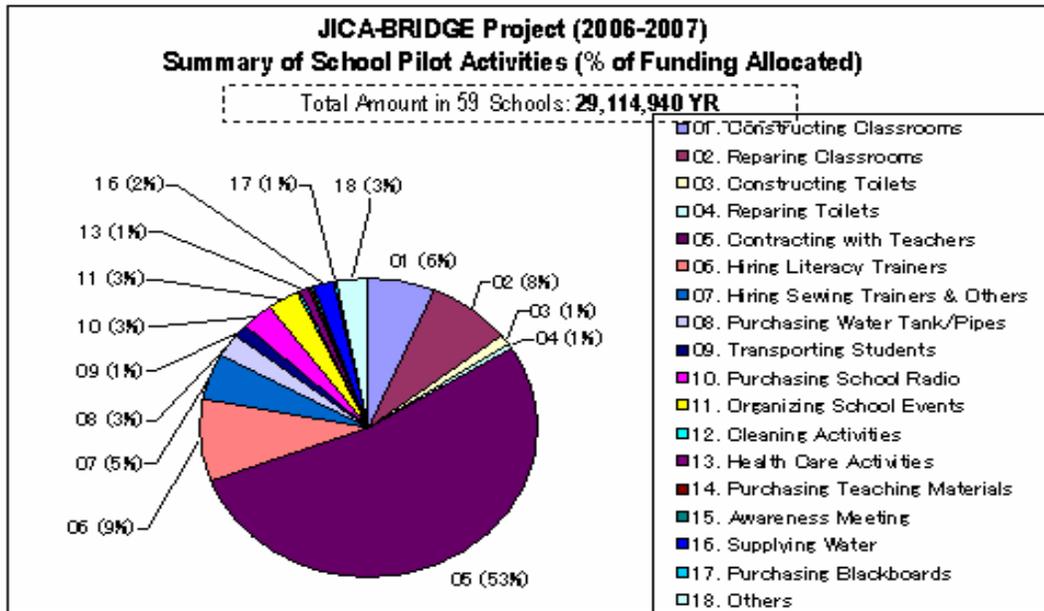
- 案件名：イエメン共和国タイズ州地域女子教育向上計画
- 本案件は、タイズ州において、女子教育改善に有効な学校・コミュニティ主体の地方教育行政モデルを開発することを目標とし、
 - 1. 州教育局の行政能力向上、
 - 2. 教育へのコミュニティ参加の促進、
 - 3. 学校運営能力の改善に係る技術協力を行う。
- 協力期間
 - 2005年6月～2008年11月(3年6ヶ月)
- 協力総額(日本側)
 - 約3億8千万円

■ JICAイエメン女子教育プロジェクトについて プロジェクトチーム

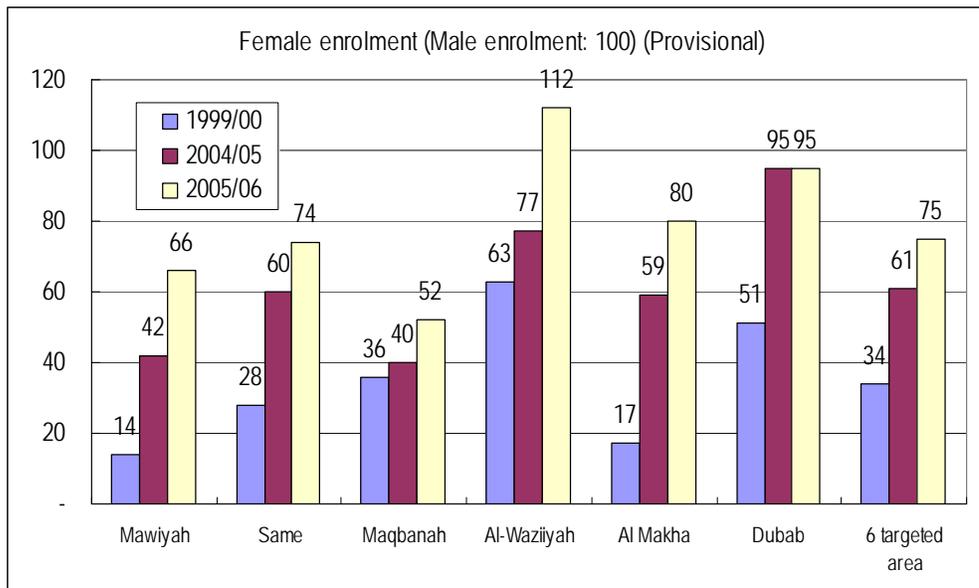


- 総括 (PADECO)
- 副総括・地方行政 (神戸大学)
- 副総括・トレーニング (PADECO・神戸大学の院生・2007年9月にPh.D.取得)
- 女子教育 (PADECO)
- 教育統計 (神戸大学)
- マイクロファイナンス・前副総括 (PADECO)
- ジェンダー (PADECO)

■ JICAイエメン女子教育プロジェクト プロジェクトの活動



■ JICAイエメン女子教育プロジェクト プロジェクトの成果



■ JICAイエメン女子教育プロジェクト プロジェクトの成果

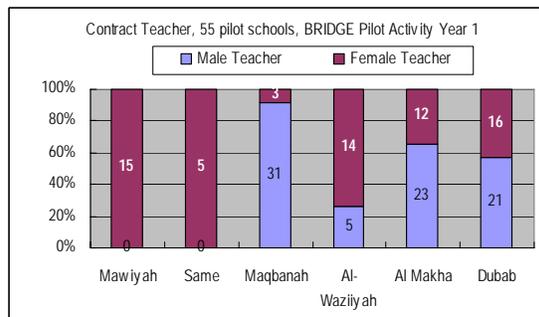
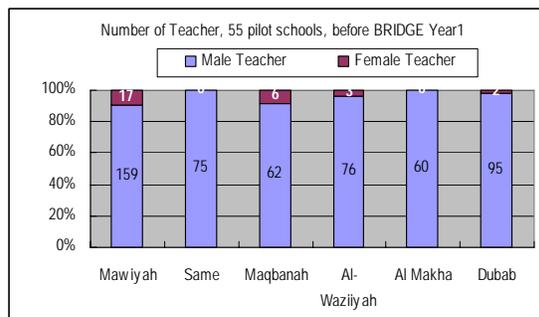
■ パイロット校における政府の教員 (2004年度)

- 男性 (95%, 527人)
- 女性 (5%, 28人)

↓ JICAプロジェクトが実施されること
よって

■ パイロット校における契約教員

- 男性 (55%, 80人)
- 女性 (45%, 65人)



■ JICAイエメン女子教育プロジェクト プロジェクトの特徴

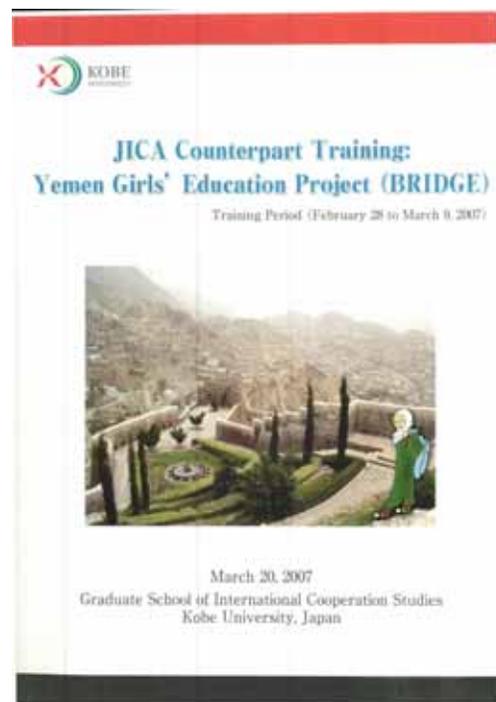
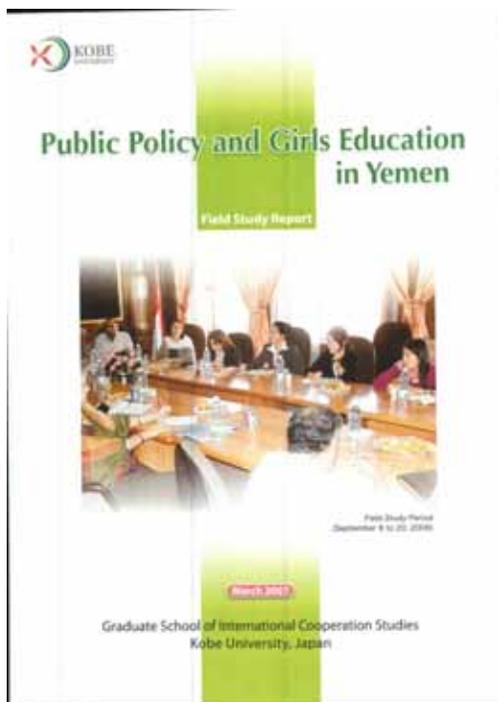
- Whole School Developmentのアプローチ
- 学校レベルの教育計画
- 直接、学校への財政支援
- 経常経費支援(契約教員の給料)
- 学校運営委員会を設立させる
- とても貧しい地域でプロジェクトの実施をする

■ JICAイエメン女子教育

大学がプロジェクトに参入した利点

- 調査研究ができる土台を確保
 - ▶ 博士論文や修士論文をイエメンをテーマにする院生が多い
- 海外実習のフィールド確保
- インターンシップ先の開拓
 - ▶ イエメン教育省、UNICEF
- イエメンから優秀な留学生の確保
- 大学の宣伝効果につながる
- 外部資金

■ 2006年度の活動成果



■神戸大学の海外実習(イエメンにて)



16

Copyright (C) 2006 Kobe University. All Rights Reserved. 

■JICAイエメン女子教育

プロジェクト側から見て大学がプロジェクトに参加することのメリット
、、、もしあるとしたら

- 専門的知識とスキル
 - 途上国や国内でのネットワーク
 - 個人の教員の経験(
 - 援助機関出身の教員もいる)
- ↓
- プロジェクトに反映

17

Copyright (C) 2006 Kobe University. All Rights Reserved. 

■ 国際協力に携わる上での課題

- 大学が組織として国際協力に参加できるか？
- 国際協力に関する理解を学内で得られるか？
- プロジェクト担当教員のインセンティブ
 - 学内で評価対象となるか？



神戸大学

大学院国際協力研究科